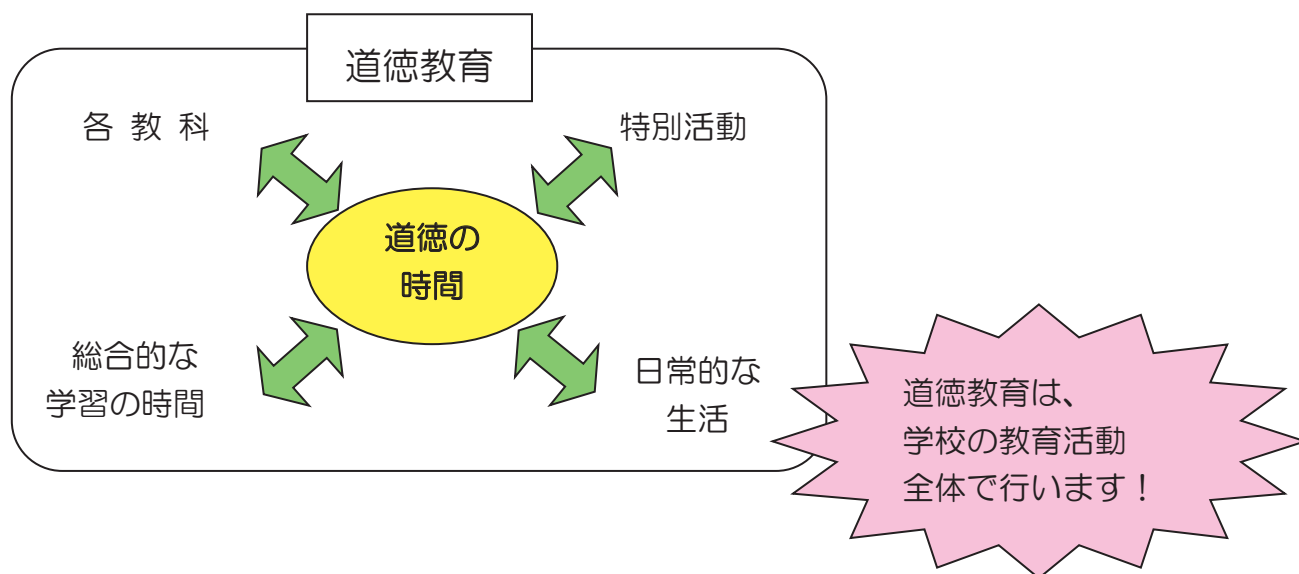


1 道徳の時間の目標

1 道徳教育と道徳の時間

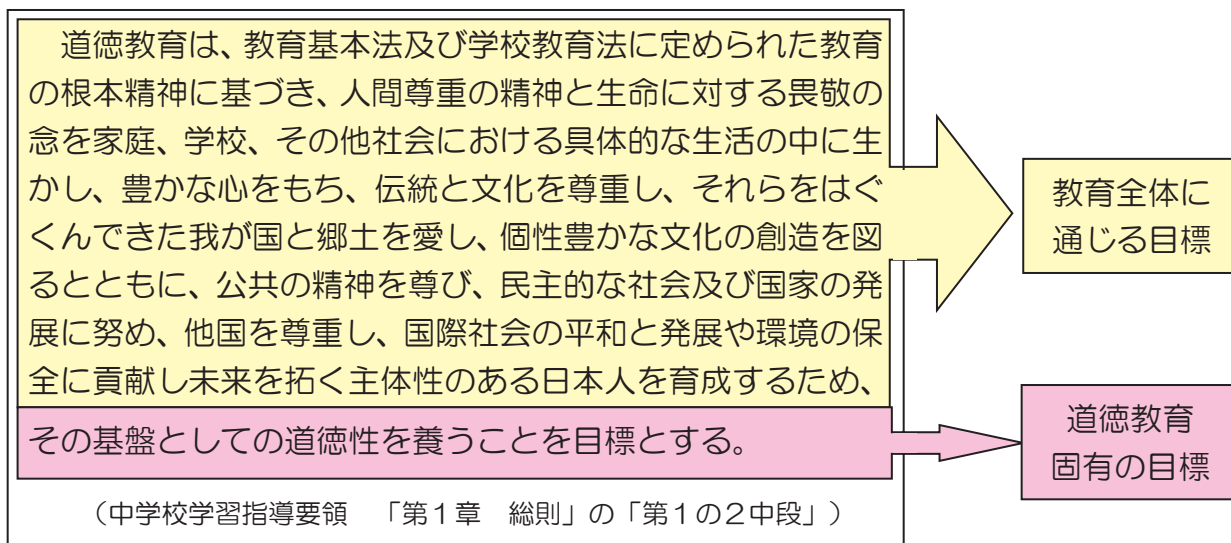
道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行います。

道徳の時間は、その道徳教育の要となる時間で、年間35時間の標準授業時数が学校教育法施行規則によって定められています。



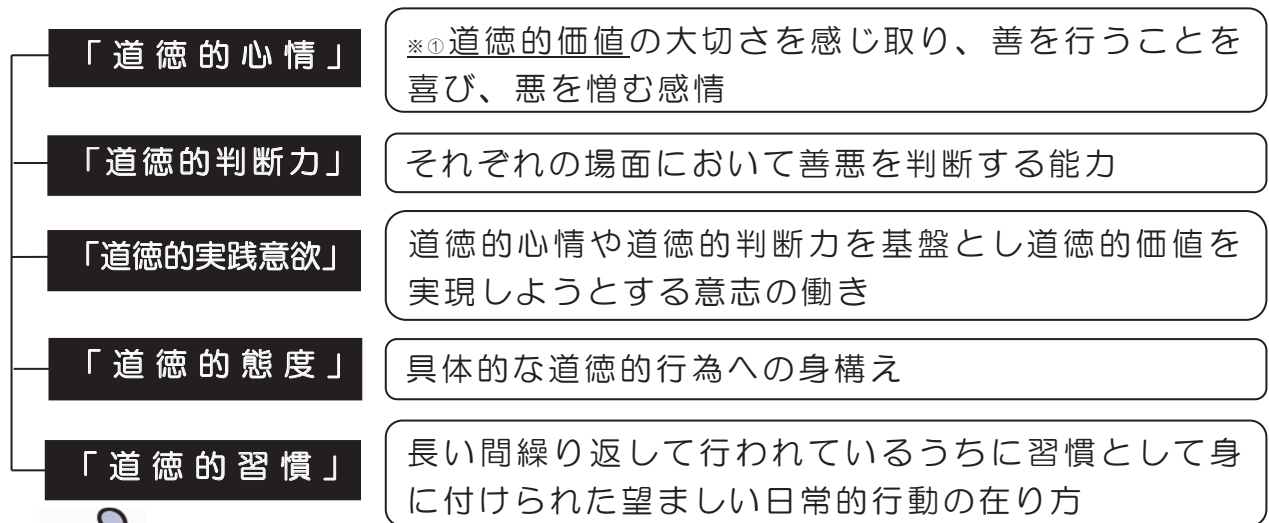
2 道徳教育の目標

道徳教育の目標は以下の通りです。



道徳教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づいて設定されているため、教育全体の目標に通じるものです。道徳教育の固有の目標は「道徳性を養う」ことです。

- ◎ 道徳性とは・・・学習指導要領解説には「道徳的心情、道徳的判断力、道徳の実践意欲と態度など」と示されています。



Point

- これらの道徳性に基づいて行われる**道徳的行為**が生徒自身の内面から自発的、自律的に生起するよう道徳性の育成に努めましょう。

3 道徳の時間の目標

道徳教育の要となる「道徳の時間」の目標は以下のとおり示されています。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、**計画的、発展的な指導**によってこれを**補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳の実践力を育成するものとする。**（中学校学習指導要領「第3章道徳」の「第1 目標」 後段）

1 計画的、発展的に指導する

道徳の時間の大きな特徴は、中学校学習指導要領「第3章 道徳」の「第2 内容」に示された基本的な道徳的価値を全体にわたって計画的、発展的に指導するところにあります。



Point

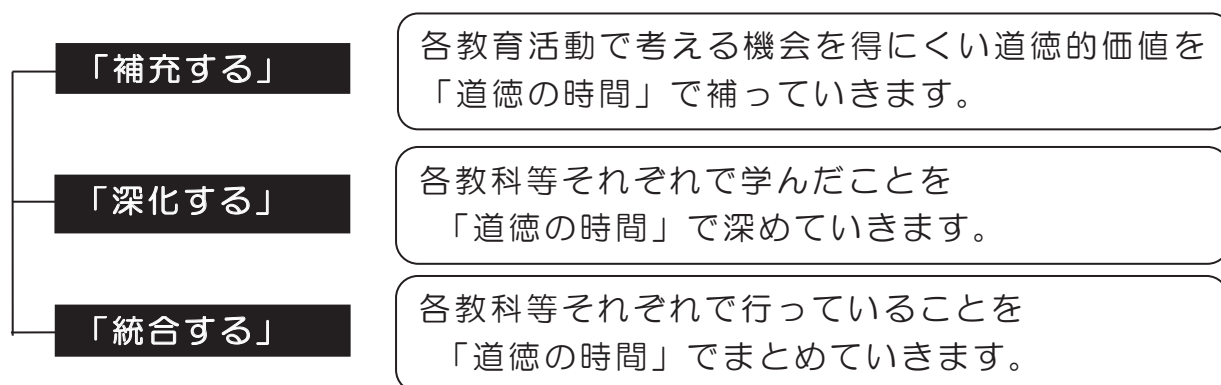
- 1年間に1－(1)～4－(10)まである、24の内容項目のすべてを指導します。
- 学校の「年間指導計画」に基づいて行いましょう。

- ・地域や学校の実態及び生徒の発達の段階や特性を考慮して作成された計画
- ・年間を通じてどのように生徒の心を育てるかを示した計画

※①道徳的価値…人間としての心の基本。人間としての在り方生き方の基本となるもの。人間らしさを表すもの。すべての人間や生命あるものを尊重する心に根ざした向上心や思いやり、公德心など。

2 学校の教育活動全体で行う道德教育を「補充」「深化」「統合」する

◎ 道德教育の要（かなめ）が「道德の時間」です。

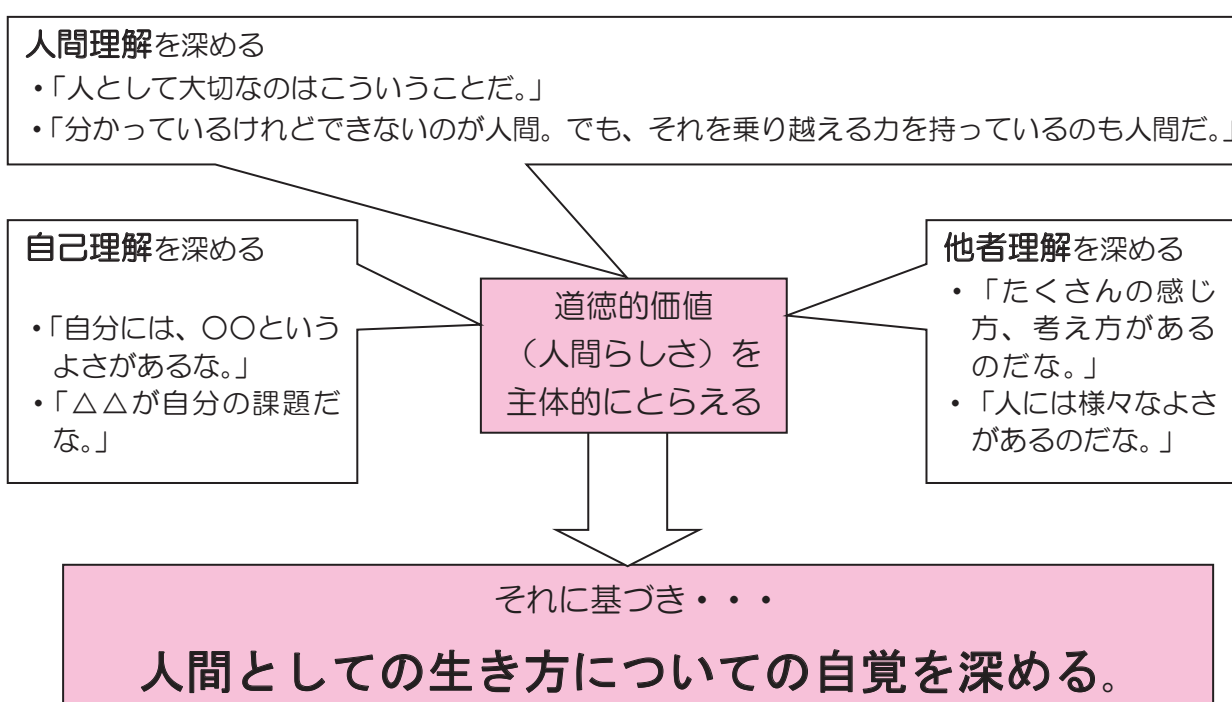


3 道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深める

◎ 道德的価値の自覚とは・・・

- 1 道德的価値について理解する
 - ① 価値理解 （例）「泣いている人に声をかけよう。」よさ・大切さ
 - ② 人間理解 （例）「困った人に声をかけるのは難しいな。」人間の弱さ・もろさ
 - ③ 他者理解 （例）「いろいろな考えがあるんだ。」自分と異なる多様な感じ方
- 2 自分とのかかわりで道德的価値がとらえられる
例：「自分は思いやりをもって生活をしているだろうか。」
- 3 道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる
例：「自分はもっとやさしくなりたい。そのためには・・・」

道德的価値の自覚を深めると同時に「人間理解」「他者理解」「自己理解」を深めます。

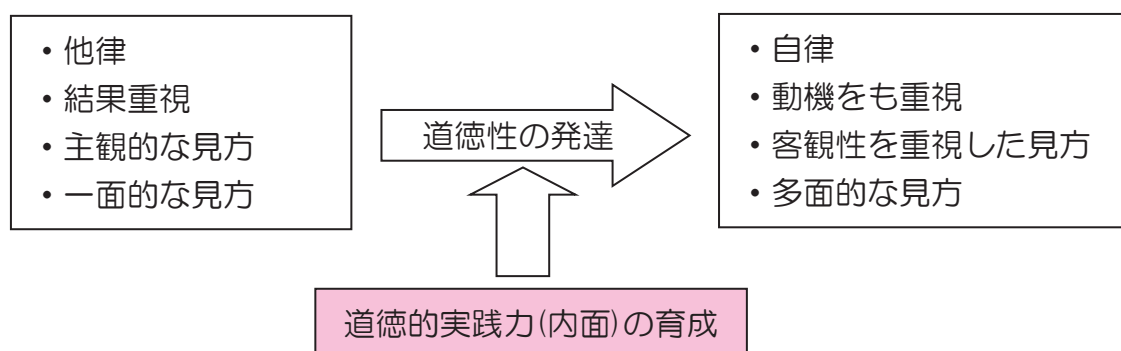


4 道徳的实践力を育成する

◎ 道徳的实践力とは・・・

人間としてよりよく生きていくための「力」です。

一人一人の生徒が、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、人間としてよりよく生きていくための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような心の力です。



Point

- 自らの生き方を主体的に選択して実践する心の力を付けるのですから、**教師からの道徳的価値の押しつけや、単なる生活経験の話合いで終わらないように留意しましょう。**
- 道徳的实践力が育つことにより、より確かな道徳的实践ができ、より確かな道徳的实践を繰り返すことによって道徳的实践力も強められます。**道徳教育は、道徳的实践力と道徳的实践の指導が相互に響きあって、一人一人の道徳性を高めていきます。**

4 道徳の時間の指導 “7つの基本方針”

1 「道徳の時間」の3つの特質を理解しよう

- ① 自己を見つめる時間
- ② 道徳的価値を自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める時間
- ③ 道徳的实践力を主体的に身につける時間

このことを理解して「道徳の時間」を展開しましょう。

2 信頼関係や温かい人間関係を基盤にしよう

日頃からの学級経営が道徳の授業をつくります。

一人一人が感じ方や考え方をのびのびと表現できるように、また心の交流を深めることができるようにしましょう。

3 生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫しよう

「道徳の時間」は道徳的価値についての単なる知的理解に終始したり、一方的に指導したりする時間ではありません。道徳的価値を自己とのかかわりにおいてとらえる時間にするために、**内面的に自覚できるような指導方法の工夫**をしましょう。

4 生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫しよう

年齢・集団で効果的な指導は変わってきます。生徒の発達段階、個人差、個々の課題を踏まえて、**興味や関心を高められるような配慮**が大切です。

5 道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める「要」となる工夫をしよう

職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かし、体験を通して感じたことや考えたことをもとに対話を深めるなど、心に響く多様な指導の工夫をしましょう。

ねらいに含まれる道徳的価値の側面から他の教育活動との関連を把握し事前・事後指導などを工夫しましょう。

6 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実させよう

道徳教育推進教師は、「校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師」のことです。**校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に学校の全教師が協力**しながら道徳教育の取組を進めていきましょう。

わからないことは、道徳教育推進教師にアドバイスを求めてもいいですね！



7 指導に当たっての基本的姿勢について理解を深め、指導にあたろう

「道徳の時間」は全教師が共通理解のもと、**教師と生徒が共に考え、悩み、感動を共有しながら学んでいくという姿勢**で授業に臨みます。生徒が自ら課題に取り組み、考え、道徳的实践力を養うことができるように配慮しましょう。